北京に向かって、明日に向かって、全員のチームワークを!!



(財)日本ハンドボール協会専務理事　川上 憲太

日頃は日本協会の諸事業に対し、深いご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。

先日の評議員会の中で、このたびの専務理事を仰せつかりました。今年の2月に70周年を迎えた日本ハンドボール協会において永年に亘り沢山の諸先輩によって築き上げられた栄光の実績をかえり見るとき、改めて職務の重責に身の引き締まる思いであります。力不足ではありますが、全力を上げてこの大役に取り組む所存であります。どうぞ全国の皆様のご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。

前任者・大西専務理事には長年に亘り日本協会の仕事に携わられ、6年間は大学の仕事をなさりながら専務理事として、ご苦労されました。その中にあって日本協会の指針となる「プロジェクト21」を立ち上げ、大きな成果を挙げられました。誠にありがとうございました。誌面をお借りして全国の皆様と共に感謝の意を表します。

【北京に向かって】

いよいよ北京オリンピックアジア予選大会がほぼ日程も決まり、残り4ケ月を切りました。男子ナショナルチームはリマニッチ監督、女子ナショナルチームはバウワー監督のもと、最後の仕上げに入っていきます。女子の開催はカザフスタンとなりましたが、男子のオリンピック予選会を3大会連続で「地の利」を生かすべく豊田市での開催を招致することができました。愛知県のハンドボール協会を始めとして関係各位のご協力を得まして成果を上げる大会とするべく「北京予選実行委員会」にて準備中であります。全国に広がるサポーターの皆様からも大会に向けて結集すべく大きな動きが起こっています。昨年から始めた北京オリンピック出場応援募金箱もだんだん重くなってきています。元ナショナル選手のOB•OGの皆様も力強い支援を約束して下さっています。「会場をチャンピオンブルーで」のスローガンで売り出したTシャツも売れ行き好調です。NHKBS放送での中継もほぼ決定し、今後国内では、オリンピック予選プレ豊田大会（7月初旬)、熊本世界選手権10周年記念大会（7月中旬)、ヒロシマ国際大会（7月初旬）とナショナルチームが登場します。日本リーグ、実業団連盟、全日本学生連盟，高体連、中体連、小学生と各都道府県協会、地方協会全ての全員のチームワークで代表チームを北京に運んでいきましょう。

代表チームの皆さん、国の代表として命を懸けて戦って下さい。日本ハンドボール界の未来はオリンピック出場に懸かっているのですから。

【明日に向かって】

日本のハンドボール界の目標はオリンピック出場、世界選手権出場を常時果たし、上位獲得を目指すことにつきるのではないかと思います。当然強化というのはただ選手を集めて鍛えて送り出すことではありません。〈強化のバロメーターは事業力〉であり、競技力向上システム・支援体制・応援体制の確立であります。

競技力向上の確立の中に「NTSの更なる前進」•「審判部の充実」•「技術委員会の充実」•「普及部門の充実・底辺拡大の推進」が挙げられます。そして、支援体制の確立は第一に「財務体質の強化」です。昨年度は登録金の値上げを行いましたが、協会の事業拡大に伴って慢性的危機状況が続いており、これを変えていくのが「マーケティング活動の充実」です。日本リーグでは、プレーオフで見られるように他の競技大会以上の運営成果が上がっていますが、チーム数の減少傾向を抱えています。そこで、地域リーグの立ち上げを開始する一方、収益法人として独立して事業化を進め、日本協会に寄与する動きを始めています。最後に、応援体制の確立ですが、「がんばれ10万人会」は3月末で10万人を達成することができましたが、サポート体制を進める上で課題はたくさんあり、全員で推進していかなくてはなりません。又「プロジェクト21」を踏まえ、各課題の業務推進と日本協会の「やらねばならない課題」の実行に総合企画室を据え、決断力をもって協会業務にあたって参ります。

われわれ日本協会を運営していく者は勿論ですが、全国の皆さん、「協会が何をしてくれるかではなく、ハンドボール界に何ができるか」を教えていただき、全員で**チームワーク**を持って推進していくという精神で、今後ともご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

北京への道 2

北京オリンピックアジア予選大会に挑む!

男子日本代表チーム監督　イビツァ・リマニッチ

北京オリンピック出場は日本代表チームにとって最大の目標である。そして私は、それぞれのスポーツマン、選手、コーチまたはリーダーも、北京を最大の目標としていることを確信し願いを込めて挑戦する。

日本ハンドボール協会の申し出を受けチームを引き継いだ時、最大のターゲットは日本のオリンピック出場、そしてハンドボール競技力向上であった。

私の責務は、スタッフ（ローランド、佐藤壮一郎、赤尾和彦）とともに日本代表チームをステップ・アップさせていくことである。

技術一戦術面でチームを強くし、個々のプレイヤーがアジアの全プレイヤーと対等に戦えるようにし、自分自身に確信を持たせることにより北京オリンピック出場が可能になる。

一番の責務は、経験ある選手（中川、永島、坪根)、定評ある選手（宮﨑、豊田、高木、東)、大いなる才能と可能性をもつ選手（門山、富田、中畠、志水）を融合させていくことである。

コーチ・サイドの見解は、日本代表チームは才能、可能性、パワーを兼ね備えた若い選手と、経験を積んだ選手、定評のある選手をうまくミックスすることでのみ、改善されるというものである。

二番目の責務は、合宿をより多くこなすようにすることである。攻撃や守備に色々なスタイルを持ったチームと練習試合や公式試合をすることは大変重要である。良い対戦相手、特にやや実力で上回るチームと対戦することが大切で、そうすることにより我々自身の限界と可能性を試すことが出来る。

アジア地区の強豪国（韓国、クウェート、カタール、イラン）と戦うためには、全ての面においてベストでなければならない。チーム関係者、コーチ陣、トレーナー、プレイヤー…と。

デフェンスが良くない時、攻撃が素晴らしくても不十分だし、ゴールキーパーのセーブ率は 50% 近く必要だし、バックプレーヤーのシュート成功率は 55%、サイドとポストは 70 ～ 75% の成功率が欲しい。

我々コーチがしなくてはならない仕事として、選手たちに充分な準備と良い体調、そして自信を付けさせることである。赤尾トレーナーは、チームにとって大変重要な人物である。

これらのことを進めて行くには、日本代表チームの各々の選手が技術・戦術だけでなくメンタル面も含めて、些細なことでも普段からポジティブに考えるように心掛ける必要がある。長い期間一緒に居ることはやさしいことではないが、我々は互いに尊敬しいグループを信頼する集団でなければいけない。そうして北京オリンピック出場が最大の目標である事を決して忘れてはならない。

さらなるコミュニケーションとトレーニングを継続し、一心同体すべてを傾注していくことを決して忘れてはならないのである。

日本リーグチームのコーチとのコミュニケーションや彼らのサポートもまた、大変貴重である。我々の合宿は全てのクラブチームのコーチに開かれており、このことは選手にとっても良いことである。コーチの皆さんを合宿へ招待し、他のコーチの皆さんとディスカッションをしたり、学んだり、プランを練ったりすることは、日本におけるハンドボールにとって良いことである。また、日本代表チームのコーチやスタッフは、日本ハンドボール協会及び大学などのコーチによるシンポジウムにてアイディアをサポートされたり、互いに考えを改めたり、新しい刺激を得ることは大変良いことである。

北京オリンピック予選への準備は、4 月 12 日に始まり、80 日間をともに過ごす。5 つの大会（熊本・愛知の 2 つの大会は日本で開催される）に参加し、9 月 1 日～ 10 日に豊田市で開催されるアジア予選で最善を尽くすために、30 試合をこなす。

トレーニングや試合に費やすとても多くの日々は、重要である。5 月にはクロアチア、6 月には中国、8 月にはヨーロッパで合宿を行う。

豊田市での予選へ向けて順調に準備を進めており、最善をつくして勝ち進みオリンピックへ出場する。そのためには、トップのトレーニングだけでは不十分であり、選手、コーチ、各々のハンドボール仲間、ファンのサポートが非常に重要である。すべてのサポートが 7 月の大会（愛知・熊本）そして 9 月の最終予選に必要である。最後まで声援とともに戦い抜き、ともに歓喜しようではありませんか !!!

北京に向けて 応援メッセージ 第2回

悲願の北京オリンピック出場に向けて、オリンピック代表のＯＢ・ＯＧの方から応援のメッセージを寄せていただきました。

“信じ通すこと” が大きな力になる

西山　清（日新製鋼㈱／84 ロサンゼルス・88 ソウルオリンピック出場）

私が全日本を引退して早 18 年が過ぎました。当時も今も同じですが、オリンピックへの出場権を得る、という事は並大抵のことではないと私自身よく解っているつもりです。私にとって初めてのオリンピック予選（ロサンゼルス大会）は、次回オリンピックの開催地が韓国・ソウルということもあり、国をあげて強化を図っている韓国チームが、我々全日本にとって一番の宿敵であり、その戦いは非常に厳しいものでしたが､総力で勝ち取る（逆転）ことができました。

ただ、当時と今回の予選でまず違うことは、中東のレベルが格段に上がっていること、併せて依然として日本の宿敵であることに間違いはない強豪韓国といった状況の中、我々が経験した以上に厳しい戦いとなると思っています。



筆者の西川さん

こうした厳しい戦いを前に一つだけ申し上げるると、我々の時代もそうでしたが、自分がやってきたことを信じきること、監督・コーチ・スタッフ、そしてチームメイトと一緒に練習してきたことを最後の最後まで信じきることができるか、だと思っています。それが勝敗の鍵だと思っています。



奇跡の大逆転でロスへ

1983 年 11 月 20 日：駒沢体育館
予選初戦で韓国に敗れたが、最後に中国を 27 － 20 で破り、出場権を獲得した瞬間

当然、相手があることですから、一つひとつのプレーだけを見た場合、思った通り行かない場合もあるでしょう。こうした場面が沢山あるとは思いますが、一つひとつのプレーに一喜一憂し、自分・チームメイトに不信感を抱くことなく、信じきることが、勝つために必要な “チームの粘り” であり、“チーム内の信頼関係” だと私は思います。

自分を見失うこと、またチームメイトへの不信感は、当たり前のことが当たり前にできなくなる一番の要因です。ひたすら信じ通すことが強い鎖であり、強いチーム力だと考えます。

最後に、私自身今回のオリンピック予選で男女とも出場権を得る予感がします。そう信じております。是非、自分のプレーを、チームのプレーを思う存分披露してみてください。

ANA CUP 第31回 日本ハンドボールリーグプレーオフ

男子・大同特殊鋼、女子・オムロンが２連覇！





写真提供：スポーツイベント社

ANA CUP 第31回 日本ハンドボールリーグ プレーオフを終えて

日本ハンドボールリーグ機構 GM　田中　茂

■はじめに

はじめに、第 31 回日本ハンドボールリーグ開催に際しまして、各開催地協会、スポンサー、サポーターの皆様、また日本リーグを支えて頂きました多くの関係者の方々に深く感謝申し上げる次第です。誠にありがとうございました。今後ともご協力の程、宜しくお願い致します。

さて、レギュラーシーズン男女上位チームによる、プレーオフが３月 17 日（土）・18 日（日）の両日、東京　駒沢体育館で今年も開催されました。

■プレーオフの新たな試み

ANA CUP 第 31 回プレーオフについては、今までと違った運営方法を試みました。

１．アリーナエリア席の設定

試合会場である駒沢体育館で、よりコートに近い席を指定エリア席とし、ファンの皆様にゆっくり観戦していただく事を提案させて頂きました。

２．日付別チケットの発行

日付別のチケットを発行する事により、入場者数を事前に把握し適性入場者での観戦を提案させて頂きました。

３．応援団席の変更（アリーナエリアから、１、２階席に移動）

チーム応援団席を１、２階に変更させて頂き、多くの応援団を収容できるように。また、アリーナエリア席を一般のファンの方々に開放する事を提案させて頂きました。

４．試合演出

ハンドボールファンに対し、観戦する楽しみを多く提案できないかと試合前セレモニーを工夫し、試合前にサポーター（ファン）とチームが一体となり試合を盛り上げていく為の演出を提案させて頂きました。



上記事項以外にも細かい変更を致しましたが、まだまだ改善の余地があるかと思いますが、会場に多くの方々が観戦にお越しいただいたことに感謝申し上げます。

■プレーオフ

ANA CUP 第31回プレーオフは女子準決勝、男子準決勝、女子決勝、男子決勝、全ての試合で熱戦が展開され、観客（ファン、応援団）と選手が一体となり会場は今まで以上の盛り上がりをみせました。試合会場は3500人に近い観客の皆様に来場頂き、その多くの観客の前で選手達はプレーし、手に汗握る試合を連日展開しました。

2点共　写真提供：スポーツイベント社

そのなかで優勝されました、男子・大同特殊鋼、女子・オムロンの選手、チーム関係者の皆様、優勝おめでとうございます。

■ご来賓の皆様

今回も高円宮妃久子殿下には、男子、女子の決勝戦にご臨席を賜り、賞賛のお言葉を頂戴いたしました。誠にありがとうございました。

また、日本体育協会会長・日本トップリーグ連携機構会長の森喜朗様をはじめ、財団法人日本オリンピック委員会会長の竹田恆和様、日本体育協会前会長の安西孝之様ご夫妻にもご臨席賜りました。

全日本空輸株式会社、アシックス株式会社、株式会社モルテンをはじめ多くの協賛企業の皆様にも激しい試合をご堪能頂きました。

■第32回大会に向けて

第31回プレーオフでは、試合内容、試合演出、観客数、試合運営と私共が目指しているハンドボールに近づいてきていると考えております。しかし、まだまだ色々な意味での改善点、修正点は、多くの方々の意見を聞きながら迅速に対応していきたいと考えております。

また、日本ハンドボールリーグが国際レベルでの競技力向上の場として、今後一層重要になってきますが、私共は内外の期待に沿うべく、更なる努力を積み重ねて行きたいと考えております。どうか皆様、今後ともご指導、ご支援、ご協力のほど宜しくお願い致します。

最後になりましたが、第31回日本リーグを支えて頂いた多くの方々、大会運営にご尽力頂いた皆様、本当にありがとうございました。今期以降も多くの方々に、支援、支持されるハンドボールリーグを目指し、努力していきたいと考えております。ありがとうございました。

第31回日本ハンドボールリーグ表彰選手一覧

＜男子＞

最優秀監督賞		姜　在源	（大同特殊鋼）	2回目
最高殊勲選手賞		末松　誠	（大同特殊鋼）	初
殊勲選手賞		山口　修	（湧永製薬）	初
得点王		神田　友和	（北陸電力）	127点　初
フィールド得点賞		神田　友和	（北陸電力）	127点　初
シュート率賞		渡辺　正樹	（湧永製薬）	0.664　初
7mスロー得点賞		原　貴之	（豊田合成）	36点　初
7mスロー阻止率賞		松延　弘樹	（ホンダ熊本）	0.435（10/23）　初
最優秀選手賞		白　元喆	（大同特殊鋼）	3回目
最優秀新人賞		門山　哲也	（トヨタ車体）	
ベストセブン	GK	高木　尚	（大同特殊鋼）	初
	CP	渡辺　正樹	（湧永製薬）	初
	〃	猪妻　正活	（大崎電気）	初
	〃	山口　修	（湧永製薬）	6回目
	〃	白　元喆	（大同特殊鋼）	4回目
	〃	李　才佑	（大同特殊鋼）	初
	〃	宮崎　大輔	（大崎電気）	3回目
ベストディフェンダー賞		富田　恭介	（大同特殊鋼）	初
フェアプレー賞		豊田合成	110点／18試合（6.1点／試合）	

＜女子＞

最優秀監督賞		黄　慶泳	（オムロン）	2回目
最高殊勲選手賞		勝田　祥子	（オムロン）	2回目
殊勲選手賞		高森　妙子	（広島メイプルレッズ）	初
得点王		郭　惠靜	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	110点　3回目
フィールド得点賞		郭　惠靜	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	103点　4回目
シュート率賞		水野　恵子	（オムロン）	0.821　初
7mスロー得点賞		吉田　祥子	（オムロン）	69点　2回目
7mスロー阻止率賞		勝田　祥子	（オムロン）	0.423（22/52）　初
最優秀選手賞		田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	3回目
最優秀新人賞		野路　良子	（北國銀行）	
ベストセブン	GK	勝田　祥子	（オムロン）	2回目
	CP	水野　恵子	（オムロン）	初
	〃	佐久川ひとみ	（オムロン）	6回目
	〃	土屋　友美	（広島メイプルレッズ）	初
	〃	金　鎭順	（広島メイプルレッズ）	2回目
	〃	郭　惠靜	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	3回目
	〃	田中美音子	（ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州）	10回目
ベストディフェンダー賞		坂元　智子	（オムロン）	2回目
フェアプレー賞		ｿﾆｰｾﾐｺﾝﾀﾞｸﾀ九州	103点／15試合（6.9点／試合）	

＜審判表彰＞

最優秀レフェリー賞	家永昌樹（大阪府）・福島亮一（長崎県）
最優秀新人レフェリー賞	該当なし

戦評

男　子

▼準決勝

大同特殊鋼　36（16－12，20－17）29　トヨタ車体

『大同特殊鋼、トヨタ車体を下し決勝へ！』

レギュラーシーズン1位の大同特殊鋼と4位のトヨタ車体の準決勝第1試合は、大同のエース20番白の4連続得点で幕を開けた。多彩な攻撃で仕掛ける大同に対し、車体はクイックスタートからの得点、エース20番門山のロングシュートで対抗する。両チームGKの好守が続き、白熱した展開となり16－12の4点差で前半が終了した。

後半は一進一退の攻防が続き、両チームとも一歩もゆずらない。15分過ぎから大同がポスト・サイドと機能しはじめ徐々に点差が開きだした。最後は粘る車体を大同がふり切り36－29で大同が勝利した

湧永製薬　31（10－14，17－13，1－0，3－1）28　大崎電気

『湧永製薬、大崎電気との延長戦を制し決勝へ！』

レギュラーシーズン2位の湧永製薬と3位の大崎電気。注目の準決勝第2試合はお互いのさぐり合いからなかなか得点が入らず、6分過ぎに湧永のキャプテン17番古家ミドルシュートでようやく均衡が破れた。その後は湧永、大崎ともに一進一退の攻防が続き15分には5－5の展開。20分過ぎに湧永の6番山中の退場から大崎が連続得点でリードを広げ10－14と大崎が4点リードで前半を終了。

後半立ち上がり湧永の5連続得点で追いつくとその後は両チームとも意地と意地、執念と執念のぶつかり合い、29分には26－27で大崎が1点のリード、残り10秒で湧永11番東のステップシュートがゴールネットをゆらし、試合は延長戦にもつれ込んだ。延長に入ると19番山口の気迫あふれるポストプレーでリードを広げた湧永が、GK坪根のファインセーブもあり、粘る大崎をふり切り決勝へのキップを手に入れた。

▼決勝

大同特殊鋼　27（14－10，13－14）24　湧永製薬

『大同特殊鋼、接戦を制し2年連続王座に輝く！』

2年連続王座をねらう大同特殊鋼、9年ぶりの王座奪還となるか湧永製薬。注目の男子決勝は大同13番李、4番末松で連取すれば、湧永は19番山口、7番福田の得点で対抗。大同が13番李の活躍で得点を重ねれば、湧永は11番東、7番福田の得点で必至に食らいつく。高いディフェンスから徐々にペースをつかんだ大同が14－10の4点差で前半を折り返した。

後半、19番山口の連続得点でリズムをつかんだ湧永は、GK12番坪根のファインセーブもあり、18分には1点差まで詰めよった。しかし、大同は6番富田のポストで再び2点差とする。その後はお互いに一歩もゆずらず、ここからは意地と意地のぶつかり合い。湧永が3番下川、17番古家で得点を重ねたが、最後は大同、13番李、20番白の気迫あふれるプレーで粘る湧永をふり切り27－24の3点差で2年連続の王座に輝いた。

女　子

▼準決勝

広島メイプルレッズ　38（17－16，21－14）30　ソニーセミコンダクタ九州

『広島メイプルレッズ、ソニーを下し決勝進出！』

レギュラーシーズン2位の広島メイプルレッズと同3位のソニーセミコンダクタ九州による注目の女子準決勝はソニーのスローオフで幕を開けた。エース15番の金を中心に攻撃するメイプルに対し、2番郭、3番長野からのスピードあるパス回しで攻めるソニー。お互いのGKの好守もあり前半は一進一退の展開で、17－16の1点差リードで終了した。

後半、4連続得点でリズムをつかんだメイプルはGK高森のスーパーセーブで徐々に点差を広げ、15分には33－23の10点差となった。粘るソニーは3番長野、9番高栖の速攻で追い上げを図ったが、最後はメイプルがソニーの攻撃をしのぎ切り38－30の8点差で勝利した。

▼決勝

オムロン　33（16－11，17－13）24　広島メイプルレッズ

『オムロン、メイプルレッズを下し2連覇達成！』

オムロンの連覇か、それとも広島メイプルレッズが女王の座を奪い返すのか。注目の女子決勝戦はオムロンのスローオフで幕を開けた。オムロン18番東濱のロングシュートで先制すれば、すかさずエース15番金のシュートで取り返すメイプル。4番許のポストプレーを中心に得点を重ねるオムロンに対しクイックスタートから得点をねらうメイプル。お互いに一歩も譲らず25分には12－11の展開。26分にメイプル5番大前の退場を機にオムロンが3連続速攻で点差を広げると16－11で前半が終了。

後半になってもペースが乱れないオムロン。4番許、11番洪で確実に得点を重ねる。必死に食い下がるメイプルは8番菅野、15番金で抵抗するが、点差は縮まらない。GK1番勝田のファインセーブもありオムロンが粘るメイプルをふり切り2連覇を達成した。

第 31 回日本ハンドボールリーグ成績表　レギュラーシーズン日程終了　3月4日

■男子

順位		大　同	湧　永	大　崎	車　体	ホンダ	紡　織	ホン熊	北　電	合　成	トヨ自	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	大同特殊鋼	＼	29 29 ○○ 27 24	30 31 ○○ 29 27	42 39 ○○ 30 30	38 37 ○○ 30 22	29 35 ○○ 21 32	32 45 ○○ 22 27	42 42 ○○ 20 27	44 45 ○○ 19 17	39 40 ○○ 22 11	18	18	0	0	668	437	231	36
2.	湧永製薬	24 27 ●● 29 29	＼	26 24 ○● 25 25	36 25 ○● 33 27	35 30 ○○ 26 22	34 34 ○○ 22 22	31 34 ○○ 22 26	35 40 ○○ 28 17	39 48 ○○ 21 16	42 44 ○○ 26 11	18	14	0	4	608	427	181	28
3.	大崎電気	27 29 ●● 31 30	25 25 ○● 24 26	＼	28 35 ○○ 27 23	32 29 ○○ 27 21	23 37 ●○ 27 30	30 38 ○○ 17 23	36 35 ○○ 28 25	47 43 ○○ 24 20	43 42 ○○ 21 22	18	14	0	4	604	446	158	28
4.	トヨタ車体	30 30 ●● 39 42	27 33 ○● 25 36	23 27 ●● 35 28	＼	24 32 ●○ 25 26	36 31 ○● 31 33	36 49 ○○ 26 27	41 46 ○○ 26 18	39 44 ○○ 19 26	42 40 ○○ 23 21	18	11	0	7	630	506	124	22
5.	ホンダ	22 30 ●● 37 38	22 26 ●● 30 35	21 27 ●● 29 32	26 25 ●○ 32 24	＼	28 32 ○○ 20 26	22 29 ○○ 16 19	33 25 ○○ 26 21	35 32 ○○ 22 23	35 29 ○○ 11 16	18	11	0	7	499	457	42	22
6.	トヨタ紡織九州	32 21 ●● 35 29	22 22 ●● 34 34	30 27 ●○ 37 23	33 31 ○● 31 36	26 20 ●● 32 28	＼	32 32 ○○ 31 28	26 33 ○○ 25 31	34 34 ○○ 24 23	33 38 ○○ 24 21	18	10	0	8	526	526	0	20
7.	ホンダ熊本	27 22 ●● 45 32	26 22 ●● 34 31	23 17 ●● 38 30	27 26 ●● 49 36	19 16 ●● 29 22	28 31 ●● 32 32	＼	30 29 ○○ 24 28	34 27 ○● 28 30	25 29 ○○ 21 21	18	5	0	13	458	562	-104	10
8.	北陸電力	27 20 ●● 42 42	17 28 ●● 40 35	25 28 ●● 35 36	18 26 ●● 46 41	21 26 ●● 25 33	31 25 ●● 33 26	28 24 ●● 29 30	＼	29 32 ○○ 21 23	35 26 ○● 19 31	18	3	0	15	466	587	-121	6
9.	豊田合成	17 19 ●● 45 44	16 21 ●● 48 39	20 24 ●● 43 47	26 19 ●● 44 39	23 22 ●● 32 35	23 24 ●● 34 34	30 28 ○● 27 34	23 21 ●● 32 29	＼	23 18 ○○ 17 17	18	3	0	15	397	640	-243	6
10.	トヨタ自動車	11 22 ●● 40 39	11 26 ●● 44 42	22 21 ●● 42 43	21 23 ●● 40 42	16 11 ●● 29 35	21 24 ●● 38 33	21 21 ●● 29 25	31 19 ○● 26 35	17 17 ●● 18 23	＼	18	1	0	17	355	623	-268	2

※勝敗（○△●）の上が得点、下が失点を表し、左がホーム、中がアウェイ、右が第３地域の結果を表す。

■女子

順位		オムロン	メイプル	ソニー	北國銀行	HC名古屋	三　重	数	勝	分	敗	得点	失点	差	点
1.	オムロン	＼	30 28 35 ○△○ 28 28 23	35 32 33 ○●○ 26 35 31	34 27 31 ○○○ 24 21 19	41 34 43 ○○○ 17 21 16	34 38 27 ○○○ 20 15 15	15	13	1	1	502	339	163	27
2.	広島メイプルレッズ	28 28 23 △●● 28 30 35	＼	38 33 34 ○●○ 28 37 30	35 31 23 ○○● 23 26 30	32 29 27 ○○○ 13 18 22	32 24 29 ○○○ 23 23 19	15	10	1	4	446	385	61	21
3.	ソニーセミコンダクタ九州	35 26 31 ○●● 32 35 33	37 28 30 ○●● 33 38 34	＼	27 37 36 ●○○ 28 28 30	30 34 34 ○○○ 24 22 23	34 33 42 ○○○ 27 21 23	15	10	0	5	494	431	63	20
4.	北國銀行	21 24 19 ●●● 27 34 31	26 23 30 ●●○ 31 35 23	28 28 30 ●○● 37 27 36	＼	32 29 33 ○○○ 12 18 12	19 31 27 ○○○ 18 18 16	15	8	0	7	400	375	25	16
5.	HC名古屋	21 17 16 ●●● 34 41 43	18 13 22 ●●● 29 32 27	22 24 23 ●●● 34 30 34	18 12 12 ●●● 29 32 33	＼	20 18 25 △○△ 20 17 25	15	1	2	12	281	460	-179	4
6.	三重花菖蒲	15 20 15 ●●● 38 34 27	23 23 19 ●●● 24 32 29	21 27 23 ●●● 33 34 42	18 18 16 ●●● 31 19 27	17 20 25 ●△△ 18 20 25	＼	15	0	2	13	300	433	-133	2

PHOTO GALLERY　PHOTO GALLERY　PHOTO GALLERY　PHOTO GALLERY



会場の駒沢体育館入口の様子



高円宮妃久子殿下、森喜朗日体協会長、渡邊会長はじめ表彰のプレゼンターの皆様



女子決勝審判 池渕・檜﨑ペア



優勝の瞬間



優勝の黄ヘッドコーチと佐久川キャプテンのインタビュー



女子・ＭＶＰはオムロンの勝田選手



高円宮妃久子殿下よりの表彰





男子決勝　審判ペアのブイ・オリビエ（フランス）［左］とボルド・ジル（フランス）［上］



高円宮妃久子殿下よりの表彰



胴上げされる、大同特殊鋼・姜監督



男子・ＭＶＰの大同特殊鋼の末松選手

PHOTO GALLERY

平成18年度

第30回 全国高等学校選抜大会

県立藤代紫水高等学校（茨城県）　２年連続優勝
府立洛北高等学校（京都府）　９年ぶり２回目の優勝



主催者のコメント

平成18年度第30回全国高等学校ハンドボール選抜大会を振り返って

徳島県ハンドボール協会理事長　佐藤 公美

早春の徳島において、記念すべき第30回大会を都道府県代表男女各48チームが出場して開催されましたことは、徳島県にとりましても非常に意義深いものとなりました。

平成10年度の四国インターハイにおいてハンドボールをお引き受けいたしましたが、総体は行政の力をお借りしての大会運営でもあり、何かしら落ち着いた雰囲気で本番を迎えたように思い出します。今大会は協会が主管する大会でもあり、開会式当日までバタバタと落ち着かず、その影響が大会初日まで響き、大会結果速報に至っては初日最終試合が終了するまで全国に向けて発信することが出来ず、ハンドボール愛好家の皆様に多大なご迷惑をお掛けいたしました。このことにつきましては、担当者の迅速な対応により二日目からは携帯サイトでも試合結果が見られるように改善したところ、１日一万件以上のアクセスがあり、選抜大会への関心の高さを痛感したところでした。また、試合会場につきましても徳島市周辺のハンドボールが開催可能な会場ということから、交通アクセスの悪い会場設定になり、チーム関係者の皆様にはご不便をかけましたが、今後二年間の開催に間に合うようシャトルバスの運行を含めて検討して参ります。

そんな中、各試合会場においては一回戦から熱戦が展開され観衆を惹きつけるプレーの連続で熱気あふれた雰囲気の中、最終日を迎えることが出来ました。徳島市立体育館で行われた決勝戦には1000人程度の観衆が集まり、記念大会のフィナーレを飾るに相応しい試合が行われました。新チームとなって初めての全国大会の舞台で、普段の力が十二分に発揮されないままコートを去っていったチームもあろうかと思いますが、更なる研鑽を積み、再び全国の舞台に立ってくれるものと信じております。次の機会には一日でも長く開催の地に留まれるよう望んで止みません。また、不慣れなオフィシャルに対しても温かく接していただき、補助員からは感激の声が一杯寄せられました。協会としても半年前から研修を積んだ結果が実を結んだものと、関係者一同喜ぶとともに「気持ちよくプレーしてもらう」を合言葉に残された二年間、さらにオフィシャルの育成に努めたいとの思いを強くいたしました。

また、今大会には本県より男女各２チームが出場させていただきましたが、初戦敗退という残念な結果に終わりました。大会を誘致する以上は地元代表を強化して、一勝でも多く積み重ねていくことがさらに大会を盛り上げていくことになることは間違いないことで、協会としての責任を痛感いたしました。次年度に向けては、全国の強豪と肩を並べられるようチームを育成強化していくことが急務であることは否めず、大会終了後の反省の中でも激論が交わされ、来年三月には開催地での勝利を目標に強化を進めていくことを確認いたしま

した。このように全国大会を開催誘致することでの効果は、随所に現れ始めており、全国に肩を並べられるよう残された二年間でしっかり地についた活動で、協会の充実と選手強化の両輪を上手く機能させていきたいと考えております。

最後になりましたが、本大会を開催するにあたりご協力くださいました日本協会・全国高体連・四国協会・協賛各社の皆様方に誌面をお借りしてお礼申し上げるとともに、引き続き徳島で開催されます選抜大会への更なるご協力をお願い申し上げまして、大会回顧とさせていただきます。

男子優勝チームのコメント

全国高校選抜大会に優勝して

茨城県立藤代紫水高校監督　滝川一徳





「提供：スポーツイベント社

おかげさまで、この度の第30回全国選抜大会において２年連続優勝をすることができました。

今年のチームは、昨年180㎝後半の選手を揃え超高校級の高さを誇ったチームから一変し、CPの平均身長で昨年から約10㎝ほど小さい選手構成となりました。信太（昨年U21・U19代表）という大黒柱はいるものの、残りのCPは170㎝以下と前任の伊奈高校から数えても、私のチーム作りの上で最も小型のチームとなりました。しかしながら、小さい選手ならではのスピードや機動力には、高さを上回るだけの微かな自信もありました。大会前には恩師松井幸嗣先生の下、日体大で合宿をさせて頂き、学生とともに密度の濃い練習と指導を仰ぎ、満足できる状態での徳島入りをすることができました。出発直前にはエース信太が、校内ではやりだしてしまったインフルエンザにかかってしまい心配しましたが、何とか試合には間に合い、迎えた３回戦。今度は信太以外で昨年から唯一のメンバーである加藤が、利き手の左親指を骨折するというアクシデントに見舞われ、準々決勝以降を欠場することになり、本当に苦しい戦いとなりました。しかし、選手達はそのアクシデントをプラスに変え、加藤の分までとチーム一丸となり頑張ってくれました。仲間を思いやり、それをエネルギーにしてくれた選手に感激致しました。粘り強く戦い、準々、準決勝と勝ち上がることができ、どちらが勝ってもおかしくないシーソーゲームとなった北陸高校との決勝戦。それらのアクシデントを乗り越えた力が最後１点差という展開に結びついたのだと思います。選手から改めて諦めないことの大切さを教わった気がします。このような感激を、しかも２年も続けて味わうことができたのも、学校を挙げての力強いバックアップと保護者の協力、そして選手を支えて下さった多くの関係者の方々のお蔭であります。伊奈高校在任中から合宿でお世話になりっぱなしの國學院栃木の中山先生、



写真提供：スポーツイベント社



写真提供：スポーツイベント社

学法石川の小針先生はじめそこに参加しておられる多くの先生方、指導者として、人として教えを頂いている松井先生にも感謝の気持ちでいっぱいであります。

茨城県の男子ハンドボールは平成5年から本年まで15年間で、小・中・高合わせて14回の全国優勝をすることができています。小・中・高の先生方が、連携し、お互いが勉強し合ってこのような成果を残すことができております。この環境が支えとなり今回の結果につながっていることに対しましても、県内関係の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

夏に向けて更なる精進をしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

女子優勝チームのコメント

第30回全国高等学校ハンドボール選抜大会を優勝して

京都府立洛北高校ハンドボール部主将　島岡　希

平成18年度第30回全国高等学校ハンドボール選抜大会において優勝させていただきました。記念すべき30回目のこの大会での優勝､たいへん光栄に思って思います。そして、今大会の運営にあたり御尽力いただきました大会関係者の皆様、地域の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、洛北高校に御支援、御声援を賜りました学校関係者の皆様、卒業生の皆様、保護者の皆様をはじめ、数多くの方々の温かいお心遣いに支えられ、このような結果を得ることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

一生に一度しかないこの大会を優勝という形で終えられたこと、たいへん嬉しく思っております。もう二度とない貴重な時間をすばらしい指導者のもとでかけがえのない最高の仲間とともに徳島という地において過ごせたことにたいへん感謝しております。

しかし正直なところ、優勝という実感はありません。全国のトップチームであると胸を張って言えるだけの技量も自信もありません。結果的には優勝できたのですが、私達が目指すハンドボールにはまだまだ到達できていません。今大会での試合内容は、決して納得のいくものではありませんでしたが、私達が今後取り組んでいかなければならない課題を見つけることができました。例えば、大会前のコンディショニングの重要性、プレー中においてのコミュニケーションの不足、競った場面でのメンタル面の強化、それに伴うフィジカル面の強化などが挙げられます。



写真提供：スポーツイベント社

ハンドボールというチャンピオンスポーツにおいて“勝敗”というものはつきものです。ただ単に勝つのではなく、内容はどうであったのか、それまでの過程が大切になります。今までの自分・チームを見つめなおし、さらに前へ前へと進めるよう、今後いっそうの努力を課し、夏に向けて練習します。

チームの最大目標はインターハイの３連覇です。追われる身となりますが、決して受け身となるのではなく、インターハイ３連覇を成しえたいというチャレンジャー精神で挑んでいきます。これから先いろんな壁にぶちあたると思いますが、個人個人をフォローしあいチームを向上させていきます。



写真提供：スポーツイベント社

戦　評

男　子

■準決勝

北陸　37（22－13，15－15）28　岡崎城西

［戦評］前半開始直後から、両校持ち味を活かした攻防で一歩も譲らずに中盤まで緊迫したゲームか続いた。しかしながら、北陸が15分過ぎから加藤・児玉らの連続得点で徐々にリードを広げていった。岡崎城西も宇野山崎らの活躍で追いすがるも、北陸の強固なディフェンスを突破することが出来ず、前半に9点のリードを許す。後半に入って岡崎城西は主将中里の7得点などで追いすがるも、北陸もコンビネーションプレーで対抗し互角の戦いとなるも、前半の点差を詰めるまでには至らず、四年ぶりの決勝進出を果たした。

県立藤代紫水　41（19－9，22－13）22　県立岩国工業

［戦評］前半10分過ぎまでは、互角の戦いを進めるが中盤、藤代紫水が信太・山崎らの連続得点でリードを広げていった。高さとスピードを活かした攻撃で試合の主導権を握った藤代紫水に対し、岩国工業は高さのあるディフェンスを崩しきれずリズムをつかめないまま前半を終える。後半に入っても余裕のある藤代紫水は横田・会田らの攻守にわたる活躍で試合を優位に進めていった。岩国工業も反撃を試みるが退場者が出たすきを、攻め込まれ追撃も叶わず藤代紫水が二年連続で決勝進出を果たした。

■決　勝

県立藤代紫水　36（14－15，22－20）35　北陸

［戦評］立ち上がりから、藤代紫水高校が主将信太・平山らの得点で試合の流れを一気に引き寄せ、序盤をリードするが、ようやくゲーム勘の戻った北陸高校が前半20分過ぎから川口・杉本らの5連続得点で試合を振り出しに戻し、その後は一進一退の攻防で北陸高校が一点リードで前半を終了した。後半に入ると藤代紫水高校の信太に北陸高校はマンツーマンディフェンスをとり、攻撃の芽をつもうと試みるが序盤に山崎・会田らが得点を重ね中盤には5点リードする場面も。しかしながら北陸高校もクイックスタートからの速い展開で成田・平子らの得点で反撃し、後半20分過ぎには同点に追いつき、ラスト10分は両チーム互いに譲らず緊迫したゲームとなった。北陸高校はラスト3秒の場面で藤代紫水高校のGK木村が退場して得たフリースローのチャンスに得点叶わず、一点差で藤代紫水高校が大会二連覇を達成した。



女　子

■準決勝

府立洛北　35（17－3，18－5）8　県立横浜南陵

［戦評］初のベスト4進出で波に乗るかと思われた横浜南陵だったが、洛北のエース乾の開始早々からの連続得点で出鼻をくじかれた格好となった。高さのあるセンターディフェンスを崩そうと必死の攻撃を試みるも得点を積み重ねることが出来ずに前半を終了した。後半に入って、横浜南陵も1－2－3ディフェンスから相手の攻撃のリズムを崩そうとしたが、個人技に勝る洛北が前半同様得点を重ねていき二年連続の決勝進出を果たした。

文化女子大学附属杉並　31（16－9，15－19）28　県立高松商業

［戦評］初のベスト4進出の緊張感からか、前半立ち上がり今ひとつリズムに乗れない高松商業に対して、文大杉並は大場のサイドシュートやGKの好セーブなどで、試合の主導権を握り、着々と得点を重ねリードを広げていった。後半に入ると落ち着きを見せ始めた高松商業が河田・太田の得点などで追い上げを開始するも負けず劣らず文大杉並も横山・黒川らが得点を積み重ね終始リードを保っていった。高松商業も残り5分間で連続5得点するなど懸命の追い上げを見せるが、序盤の逸機が最後まで響き文大杉並が初の決勝進出を果たした。

■決　勝

府立洛北　39（19－8，20－13）21　文化女子大学附属杉並

［戦評］洛北高校が立ち上がりから積極的な攻撃で乾・塩見らがカットイン・ポストプレーなどで得点を重ね序盤をリードし、優位に試合を進めていった。一方、文大杉並は初めての決勝戦進出の緊張感から、前日までの素早い動きが鳴りを潜め、横山らの得点で反撃するも前半終了時には11点のリードを許す。後半に入り洛北高校が高山の得点などで序盤に5連続得点し、一時は15点リードの場面も。しかしながら文大杉並も洛北高校に退場者が出た10分過ぎからは、本来の動きが出始め、反撃に転じるもエース横山の得点にも限りがあり、洛北高校の前に力尽き、洛北高校が9年ぶり二回目の頂点に立った。





2点共　写真提供：スポーツイベント社

Photo Gallery


開会式の立派な会場、「アスティとくしま」


開会式・選手入場の様子



開催地徳島男子代表



開催地徳島女子代表



スタッフの背中にも、2009年までのロゴが…


全国高体連ハンドボール専門部・栗岩部長への優勝旗の返還


徳島市立高校・オーケストラ部の皆さん、ありがとうございました


選手宣誓（男子・池田高校・森岡さん、女子・城北高校・郡さん）


（財）日本ハンドボール協会・渡邉会長のご挨拶

～新体制への期待～

企画・広報委員
早川　文司

Free フリースロー Throw

今、日本協会の最大の関心事は北京オリンピック切符を獲得することである。そのカギを握るアジア予選を控えて新体制がスタートした。当初は無風との見方が大勢を占めていたが、大西専務理事の突然の辞退で体制は大幅に代わった。後任には常務理事で日本リーグ委員長だった川上憲太氏が就任したのは、ご存じの通りである。

大西体制は01年度から3期にわたった。4選を辞退したのは、基盤づくりがある程度、固まったとの思いがあるのかもしれない。あとは「新体制に託す」気持ちが働いたのではなかろうか。

大西氏が就任した時に掲げた「プロジェクト21～構造改革」を改めて読み直して見た。

その中で強化と普及の2本柱に危機感を募らせ、だからこそ、現実を直視して21世紀の日本ハンドボールの生きる道への英知の結集を訴えている。

その目標として次の3つの柱を挙げている。

①2010年のハンドボール人口を日本で3位に～小学生を中心とした地域ハンドボールチームの育成
②オリンピックに常時出場し、メダルを獲得出来る実力
③ハンドボール協会がヒト・モノ・カネで自立化

これを見て改めて感じることは、決して目新しいことではないことだ。「これが達成できなければ、きびしい環境にさらされる」という現実を踏まえたものではなかろうか。

小学生3,000チーム育成、都道府県協会はどうあるべきか、クラブチームの創設・育成などを具体的に提言している。

いわば、この提言は基盤づくり以外の何ものでもない。

直接かかわるだけ者でなく、連携を図って初めて達成できるとも述べている。まさにその通りであろう。ある程度、基盤は出来てきた。あとは新体制がどのように継承していくかにかかっている。各カテゴリーの世界選手権にはユース年代も加わった。トップ強化には各カテゴリーの強化は欠かせない。財政的には大変だろうが、ここをクリアしなければ、世界への挑戦は夢と終わる。

新体制は難題を抱えてはいるが、明るい将来にするためには、一段の全力投球が求められる。

大会報告

インダストリアルカップ2007へ参加して

U-20女子ヘッドコーチ　東江　正作

インダストリアルカップ2007は、2月27日から3月3日までチェコ共和国イチーンにて開催されました。

参加国は、この大会初招待の日本、そしてデンマーク、チェコ、ロシア、スロベニア、オーストリアのヨーロッパ勢5ヶ国、計6ヶ国の総当りで行われました。

今大会のテーマは、7月にカザフスタンで行われます世界選手権のアジア予選優勝を目標に、その大会へピークにもっていくため、本場の強さ、速さ、激しさ、を体験すること。そして、通用するプレイ、改善しなければならないプレイの見極めでした。

また、チームの方針としては、①「自ら考え行動する」、②「100%ファイトする」、③「闘う集団」を掲げました。

私達の準備としては、平成18年11月に3泊4日の国内合宿を行い、選手を選考、平成19年2月25日に成田集合、翌26日にチェコへ移動し27日オープニングゲームでロシア戦を皮切りに5試合を戦うスケジュールでした。

このような環境下で、時差に対しどれくらいの時間で順応するか、戦術の理解度は進んでいるかの確認、どのように戦う姿勢を見せるか、絶好の機会となりました。

結果的に、最初の3試合はテクニカルミスが頻発、集中力、スタミナ不足が露呈しました。

時差が解消された4試合目からは、集中力も高まりテクニカルミスも減少し、ゲームが組み立てられるようになってきました。それにともないルーズボールに対しても、身を挺するようになり戦う姿勢も現れてきました。



最終的に「個」を生かすためのシステムの徹底を図りました。習熟度がアップしてくると、状況に応じたプレイが出てきたことはこれからの戦い方に大きなヒントとなりました。

試合結果

■2月27日：対ロシア　17－29

到着翌日のゲームという大変タフなスケジュールであったが、強敵ロシアということで、全員が向かっていく姿勢を見せた。GK橋本の好セーブもあって前半互角に戦えた。7月のアジア予選に向けての課題である「縦への強い攻め」にこたえるように鳥飼、作内のディスタンスシュートが決まり、25分まで8－8とロースコアながら良いゲームだった。後半12分過ぎから基準の違うオーバーステップ等判定に苦しめられたり、テクニカルミスも出始め、連続失点でロシアにペースをつかまれる。樽井、増田の速攻などで食い下がるが、終了間際でまた連続失点され差を広げられ敗退した。

■2月28日：対デンマーク　20－41

今大会№1の実力と見られるデンマーク。鳥飼のディスタンスシュートで始まったが、デンマークのディフェンスにシュートが決まらずそれを速攻に持ち込まれ一気に1－6となる。沢井のガッツあるプレイで食い下がるが、デンマークが4－2ディフェンスにシステムを変えるとテクニカルミスを連発。それを速攻にされる。

後半気持ちを立て直して勝負に挑んだ。沢井、作内、池之端ら練習したプレイも見られた。増田をトップにした5－1ディフェンスが機能した。しかしテクニカルミスからの速攻が止まらずデンマークの強さ、完成度の高さを感じた。

■3月1日：対スロベニア　20－33

ユースからジュニアのカテゴリーになり、新しいスタッフでの新しいシステムの習熟と縦への攻めの継続を今回の遠征の目的とした。スロベニアは前2ゲーム、5－1のディフェンスであった。午前中5－1対策でサイド、

センターからの走りをトレーニングして試合にのぞんだが、6－0のディフェンスでゲームが始まった。立ち上がり両チームとも固さが見られたが、前半10分過ぎまでリードを奪う。増田の積極的なディフェンスが退場となり、そこから連続失点されたが、戦う姿勢を見せ増田、石野のブレイクスルー、沢井の速攻で追い上げ、前半10－14で折り返した。



後半立ち上がり、作内のディスタンスなど3連取し、1点差に追い上げた。10分過ぎに中西、池之端が続けて退場し、一気に6連取された。前日の大敗の悔しさもあり、選手は最後まで全員で食らいついていった。全後半通じ、7人の退場があり、そのあたりが勝敗の分岐点となった。

■3月2日：対オーストリア　30－32

ポジションチェンジのシステムを昼のトレーニングで確認し、試合にのぞんだ。立ち上がりから動きがよく、ディスタンス、ポスト、サイド速攻とバランスよく得点していくが、相手エースの個人技に失点もしていく。23分までは同点だったが、状況判断ミスを速攻に持ち込まれ14－17で前半を終える。

後半は互いに点の取り合いになった。サイドの岡本、山野、ポストの池之端のシュートチャンスが増えた。残り5分の戦いがこれまでの課題だったが、後半に限れば4－1と最後まで集中できたゲームであった。このようなゲームでミスを1本でも減らし、勝ちにつなげなければいけない。

■3月3日：対チェコ　27－27

前回地元での世界選手権で、日本に破れメインラウンドに進めなかっただけに、闘志を燃やしてくるだろうチェコは、前日強豪ロシアに勝っている。

作内のディスタンス、池之端の速攻、沢井のサイドで前日に続きバランスよく加点し、15分まで一進一退。ここから7mスローやノーマークをセーブされ、10分間無得点。しかし残り5分踏ん張り12－18の6点ビハインドで前半終了し、後半に望みをつないだ。

後半、5－1ディフェンスで増田のトップディフェンスが機能し、チェコのテクニカルミスを再三誘発し、連続得点で追い上げ23分に逆転。残り5分間の戦い方もたくましさが出てきた。残り1分作戦タイムからシステムが崩れたが作内が渾身のシュートを決め1点リード。30秒守りきれば初勝利であったが、不可解なジャッジで増田が退場し、残り3秒で同点とされタイムアップ。しかし、場内に詰めかけた多くの観客や関係者から賞賛を受けたことがゲームを物語っていた。世界選手権に勝るとも劣らないレベルのこの大会で時差調整やシステムの成熟が進み、残り2試合は大きく成長し、たくましささえ感じられ、7月のアジア予選に向け大きな成果を得た遠征となった。

終わりになりましたが、年度末のこの時期に選手を快く送り出してくださいました所属チームの監督をはじめ、多くの関係者のご尽力に感謝するとともに、来るアジア予選には、今回の経験を生かし、目標を達成すべき全力を尽くす所存です。

●選手の感想　この大会を終えて ―――― 石野 実加子（氷見高校）

この大会は、世界の厳しさ、私たちも対等に戦えるということ、両方を教えてくれる大会でした。

とてもハイレベルな大会で、4敗1分と、とても満足のいく結果ではなかったけれど、学んだことはたくさんありました。自分達のフィジカル面の弱さは痛いほど感じました。

しかし、今このチームで何をしようとしているのか、ということを全員の意思統一をはかり、一人一人が強い気持ちでコートの中で100%ファイトすることが出来たら、私たちも世界で戦える、勝てると本当に強く思った大会でした。

個人的には、まだまだ出来てない面の方が多く、シュートバリエーションもステップの間隔もできていないので、課題にしたいと思います。あと、シュートフォームも意識して直していきます。

体力面も、もっと鍛え、外人がアタックしても倒されないような身体を作っていきたいです。

この大会では、ヨーロッパ勢のハイレベルの中で、本当に貴重な経験を積むことができました。

今回感じたこと、そして見つけた課題を日本に持ち帰り、国内で戦うのではなく、常に世界をイメージして、トレーニングしていきたいです。

第5回ハンドボールコーチング研究会

（財）日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人福島高等学校）

平成19年3月17日・18日の両日、駒澤大学において、第5回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本年の研究会は昨年と同様、日本リーグプレーオフに併せての開催となり、また、本年は会場を駒澤大学に移し2日間にわたり開催されるなど、さらに内容の充実を図って行われました。

本研究会は、全国の指導者が自身の経験・知見を持ち寄り、ハンドボールの科学的な分析を通して日本ハンドボール界の発展に寄与しようとするものです。学術的な研究を中心としたものではなく、現場のコーチングに有用な情報を寄与する機会として、平岡秀雄先生（東海大学）を中心に5年前、熊本県山鹿市で第1回が開催され、今回早くも第5回を迎えることとなりました。

学術的にも評価される研究の場でありたいとも考え、本研究会で発表した内容は、第3回大会より日本ハンドボール協会発行の「ハンドボール研究」に論文として発展させ、投稿できることとなりました。

本年は発表申し込み9件となり、発表者も大学院生から大学の教員、一般企業の方まで幅広くまた、発表内容も動作・ゲーム分析からルールに関する内容など多岐に渡りました。

各コーチの発表は意義深く、またコーチとしての鋭い質問や、心和むアドバイスなども交わされ、和やかな雰囲気の中にも、熱のこもった意見交換が行われた有意義な会となりました。

今後も、先生方だけでなく多くのコーチを巻き込み、ハンドボールの指導・分析視点や事例を発表して頂き、切磋琢磨していきたいと考えます。また、全国の熱心なコーチを多く集めて、「ハンドボール学会」にまで発展させられればと考えております。

■1日目　3月17日（土）　駒澤大学　大学会館3-1会議室

開会の挨拶　　研究会事務局　平岡秀雄（日本協会）

協会代表挨拶　担当常務理事　角　紘昭（日本協会）

研究発表

発表1	ハンドボールに関する攻防活動の評価	平岡秀雄、田村修治、栗山雅倫（東海大学）
発表2	ハンドボールにおける傷害発生状況—5年間の継続的調査より—	花岡美智子（東海大学）
発表3	ハンドボールの遅攻の局面構造に関する意識調査	丸井一誠　明石光史　田中　守（福岡大学）
発表4	小学生ハンドボールプレーヤーの移動特性に関する一考察	村上成治　大場　渉　土井　秀和（大阪教育大学） 亀井良和（大宮高等学校）

■2日目　3月18日（日）　駒澤大学　大学会館3-1会議室

研究発表

発表5	ダートフィッシュ・ソフトウェアの紹介	藤井　透（株式会社ダートフィッシュ・ジャパン）

発表6　「IHF Handbook For Basic And Advanced Training Understanding, Interpreting And Apply The Rules」の翻訳による解釈の可能性について　清水宣雄（国際武道大学）

発表7　国際レベルで活躍したゴールキーパーの動きのコツに関する事例研究　會田　宏（武庫川女子大学）

発表8　ハンドボールの個人戦術能力評価に関する実験的研究　栗山雅倫　平岡秀雄（東海大学体育学部）　藤本　元（日本ハンドボール協会）

発表9　ハンドボールゲームにおける個人攻撃貢献度評価に関する研究　明石光史　小林　桂　橋本智成　田中　守（福岡大学）

第5回コーチング研究会参加会員（順不同・敬称略）

會田　宏（武庫川女子大学）
明石　光史（福岡大学）
小笠原一生（国立スポーツ科学センター）
木野　実（日本ハンドボール協会）
栗山　雅倫（東海大学）
齋藤　倫紹（福島工業高校）
笹倉　清則（日本女子体育大学）
島尻真理子（日本女子体育大学）
島村　浩信（大分東高校）
清水　宣雄（国際武道大学）
白井　克佳（国立スポーツ科学センター）
榛葉　剛（山﨑高校）
角　紘昭（日本ハンドボール協会）
田中　達男（伊予高校）
田中　守（福岡大学）
土井　秀和（大阪教育大学）
花岡美智子（東海大学）
藤井　透（ダートフィッシュ・ジャパン）
藤本　元（日本ハンドボール協会）
松尾　司（別府溝部学園高校）
丸井　一誠（福岡大学）
水上　一（筑波大学）
村上　成治（大阪教育大学）
山下　純平（筑波大学）
西崎　由衣（東海大学）
坪井　雅典（知立東高校）
米津　浩（知立市ハンドボール協会）
高井　久美（知立市ハンドボール協会）
神谷　有希（知立市ハンドボール協会）
奥村　円香（知立市ハンドボール協会）
兵藤　美里（知立市ハンドボール協会）
田島　愛里（知立市ハンドボール協会）
大瀬良美咲（知立市ハンドボール協会）
小笠原綾雅（知立市ハンドボール協会）
坪井　夕香（知立市ハンドボール協会）
三輪　一義（琉球大学）
斉藤慎太郎（大同工業大学）
村松　誠（駒澤大学）
平岡　秀雄（東海大学）
舎利弗　学（学校法人福島高校）

ハンドボール選手の栄養と水分摂取

—女子ハンドボールチームの実態を通して—

柳田美子（順天堂大学健康栄養学研究室・医事専門委員会）、
緒方嗣雄（ソニーセミコンダクタ九州）、西山逸成（医事専門委員会）

1．はじめに

スポーツ選手は何を食べ、何を飲むかによって、健康や体重、回復力に影響を与え、ひいてはスポーツパフォーマンスを左右します。スポーツの中でもハンドボールは、バスケットボール、フットボールと同様、高パワー・高強度の活動が要求されます。そこで、ハンドボール選手に必要な栄養や水分について、社会人女子ハンドボールチーム 18 人（以下　本チームという）平均年齢は 24 歳のチームにおける栄養と水分摂取の現状を調査しましたので、これを例に述べたいと思います。

2．スポーツ時のエネルギー源

炭水化物、脂質、たんぱく質は、三大栄養素と呼ばれる重要なエネルギー源です。運動中にはさまざまな因子によりどのエネルギー源を使って筋肉を動かすかが決まります。

ハンドボールのように高パワー・高強度の活動が要求されるスポーツは、エネルギー源として炭水化物に依存する割合が多いのです。ウォーキングのように軽い運動では脂肪が使われることが多いのです。脂肪は炭水化物などに比べて 1g 当たりのエネルギーが高いのですが、高脂肪食は心疾患など生活習慣病を招いたり、筋グリコーゲンの貯蔵量が少なくなるのでパフォーマンスが低下します。

図 1 に示したような PFC バランス、即ち、たんぱく質（P; Protein)、脂質（F; Fat)、炭水化物（C; Carbon）のバランスを適切にとることが大切です。このバランスの比率については、いろいろ議論されていましたが、総エネルギーの 50 ～ 60% は炭水化物で、20 ～ 30%は脂質、12 ～ 15% はたんぱく質でとることが望ましいとされています。

図 1 は本チームの PFC バランスの結果です。炭水化物がやや少なく脂質が多い傾向がみられます。PFC バランスのとれた食事にするには、１回の食事に、主食（ご飯、パン、麺類等)、副菜（野菜、きのこ、芋、海草類)、主菜（肉、魚、卵、大豆製品）を必ずそろえ、さらに牛乳・乳製品、果物を間食、または３食のうちのどこかで食べるとよいでしょう。具体的な１回の食事は、図２のように主食、副菜、主菜を揃えて食べるとバランスのよい食事になります。本チームでは、魚や大豆製品が少なく、肉をよく食べているので脂肪量がやや多いといえるでしょう。

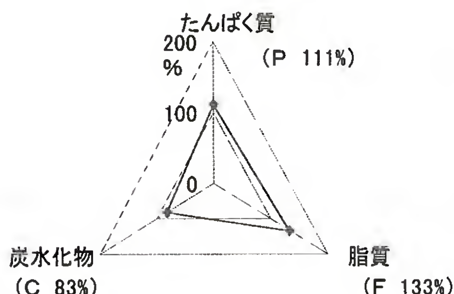


図１　エネルギーの PFC バランス
（某女子ハンドボールチーム 18 人の平均）

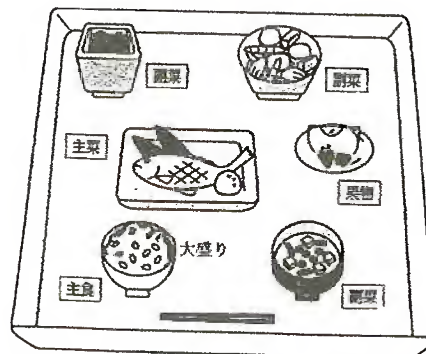


図２　主食、副菜、主菜をそろえて

3．スポーツ選手に多い貧血

アスリートの調査で、女子の 22.5%、男子の 7.5% に貧血がみられたという報告があります。本チームにおいては、鉄の貯蔵状態を示す血清中のフェリチンが少ない人が 33%みられました。従って、鉄分の多い食品（表１）と共に鉄分の吸収を良くする果物やビタミン C の多い食品をとることが大切です。本チームの女子は一般の成人女子の基準量である 10.5mg は満たしていましたが、激しいスポーツでは汗からも鉄は排泄されるので、一般の人より多く 12 － 18mg は摂りたいものです。

表１　食品中の鉄含有量 (100 中)

食品名	mg
豚レバー	13.0
とりレバー	9.0
かつお角煮	6.0
卵黄	6.0
ひじき (煮)	5.5
まいわし丸干し	4.4
まぐろ缶詰	4.0
あさり	3.8

表1に示した食品には鉄分が多いので、摂取の参考にしてください。

4. スポーツパフォーマンスを高める水分

スポーツ疲労の原因の1つに「水分の不足」があります。運動で汗をかくことによって、体の中の水分バランスが乱れて、体温の上昇や疲労物質の蓄積などが起こりやすい状態となり、疲労を感じるようになります。

「水分の不足」による疲労については、運動前、運動中、運動後に積極的に水分を摂取すると良いでしょう。体の水分が少ないと血液がドロドロになり、その結果、疲労物質を除去するのに時間がかかり、疲労が溜まりやすくなります。運動中の水分補給は、喉が渇いてから飲むのでは遅いので、早めに摂取することが大切です。とくに暑い時期のスポーツの水分補給は重要なポイントになります。30分間で約200ml以上水分を摂取することによって、乳酸の分解を早めさせることができるといわれています。また、冷たい水分を摂取することによって体温の上昇を防ぎ、体温を維持することができると同時に、脱水を防ぎ、スポーツパフォーマンスを維持することができます。

本チームにおける水分摂取の状態は、200分の連続した運動強度の高い "ハンドボールサーキットトレーニング" において少ない人では6回、多い人で12回水分を摂取しており、合計水分量は平均1,250mlでした。1回の練習で体重の減少量はおよそ平均2.6kgでしたので、これに見合ったほぼ同重量の水分を摂取しなければなりません。図3は水分を平均値より多く飲んでいた人を適量、それ以下を少量として2群に分けて、練習直後の血中乳酸値を比較したものです。水分摂取量が少ない群は乳酸値の高い人が多いことが明らかでした。また、尿タンパクについて、練習後と翌朝に検査したところ、練習直後の尿タンパク陰性者は2人のみであり、16人（89%）はタンパク陽性でした。翌日の早朝尿では、陰性者は14人（78%）であり、多くの人が正常に戻っていました。

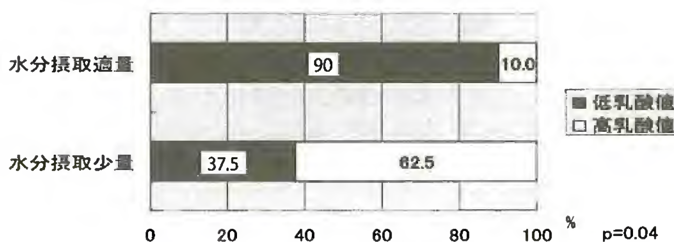


図3　水分摂取量と練習後乳酸の比較

正常に戻った選手群は、水分摂取量が多い傾向にありました。このことからも適切な水分摂取は、疲労回復が速やかであり、腎臓への負担も少なくなることが考えられます。水分の摂りかたは、スポーツ経験など個人差があり、一概にはいえませんが目安として表2に掲げました。また、4時間以上運動する選手は、水だけではなくナトリウムの不足も考慮する必要があります。十分に水分補給ができているか、簡単に見分けるには、尿の色と量を調べて、色が濃く、尿量が少ない場合はもっと水分をとる必要があります。また、運動前後の体重を計り、体重の減少した分は、水分を補うようにしたいものです。普段から自分の必要な水分量を把握しておくことで、慢性的な脱水症状を避けることができます。

表2　運動時の水分補給の目安

タイミング	前	運動直前（30分位前）
	運動　中	20分前後（15～30分）毎
	後	直後から食事での食べ物も含め就寝前までに
飲む量	前	250～500ml程度を数回に分けて
	運動　中	1回に、50～200ml程度まで
	後	体重減少分を補える量を分けて
飲み物の温度		常温、10℃前後に冷やしたもの
飲み物の組成	運動　中 後	糖質2～2.5%程度に薄めたスポーツドリンク クエン酸を含む柑橘類のジュース

5. まとめ

スポーツ選手の栄養と水分摂取は、トレーニングと同様に日常から実践していくことが、健康を維持し、スポーツパフォーマンスを高めることになります。特に栄養面では、主食、副菜、主菜を必ず揃え、バランスよく食べること、そして炭水化物や鉄分が不足しないように留意することが大切なポイントになります。

水分は、飲むタイミング、量、質について、自分に適した飲み物や量を把握しておき、喉が乾く前に飲むという習慣をつけたいものです。

スコアールーム　平成18年度・第30回全国高校選抜大会

開催期日：2007年3月25日(日)～30日(金)
会　　場：徳島県徳島市立体育館ほか

【男子】

▼1回戦

大阪体育大学浪商(大阪)	25 (13－14、12－9)	23	駿台甲府(山梨)
高山西(岐阜)	33 (11－6、22－5)	11	県立北村山(山形)
県立那覇西(沖縄)	41 (18－14、23－12)	26	東京学館(千葉)
県立湯沢(秋田)	37 (18－11、19－12)	23	県立松山北(愛媛)
県立大分雄城台(大分)	26 (11－9、15－13)	22	神戸国際大学附属(兵庫)
県立富岡(群馬)	38 (15－12、23－9)	21	県立屋代(長野)
県立利府(宮城)	46 (24－11、22－8)	19	県立池田(徳島)
県立奈良北(奈良)	35 (10－7、25－13)	20	県立飯南(島根)
県立氷見(富山)	31 (18－7、13－7)	14	県立境港総合技術(鳥取)
東海大学菅生(東京)	30 (20－6、10－11)	17	青森山田(青森)
熊本市立千原台(熊本)	32 (18－10、14－7)	17	県立高知南(高知)
法政大学第二(神奈川)	28 (12－7、16－8)	15	県立四日市工業(三重)
静岡市立清水商業(静岡)	24 (14－11、10－12)	23	修道(広島)
県立鹿児島工業(鹿児島)	29 (12－10、17－9)	19	國學院大學栃木(栃木)
県立紀北農芸(和歌山)	42 (22－6、20－17)	23	県立柏崎(新潟)
東明館(佐賀)	37 (18－12、19－13)	25	学校法人石川(福島)

▼2回戦

大阪体育大学浪商(大阪)	30 (17－15、13－14)	29	県立小林工業(宮崎)
高山西(岐阜)	27 (13－14、14－7)	21	県立小松工業(石川)
県立那覇西(沖縄)	40 (17－16、23－5)	21	県立岡山芳泉(岡山)
北陸(福井)	42 (21－10、21－17)	27	県立湯沢(秋田)
岡崎城西(愛知)	25 (12－12、13－10)	22	県立大分雄城台(大分)
北海道札幌真栄(北海道)	24 (12－6、12－15)	21	県立富岡(群馬)
祐誠(福岡)	40 (19－11、21－16)	27	県立利府(福岡)
浦和学院(埼玉)	24 (12－7、12－11)	18	県立奈良北(奈良)
長崎日本大学(長崎)	28 (18－7、10－14)	21	県立氷見(富山)
東海大学菅生(東京)	32 (18－16、14－9)	25	県立彦根翔陽(滋賀)
県立不来方(岩手)	27 (14－11、13－13)	24	熊本市立千原台(熊本)
県立岩国工業(山口)	23 (12－8、11－8)	16	法政大学第二(神奈川)
県立香川中央(香川)	35 (17－9、18－2)	11	静岡市立清水商業(静岡)
府立洛北(京都)	31 (17－12、14－8)	20	県立鹿児島工業(鹿児島)
県立紀北農芸(和歌山)	33 (15－2、18－7)	9	県立鳴門(開催地)
県立藤代紫水(茨城)	42 (18－6、24－15)	21	東明館(佐賀)

▼3回戦

大阪体育大学浪商(大阪)	37 (19－11、18－16)	27	高山西(岐阜)
北陸(福井)	39 (16－10、23－13)	23	県立那覇西(沖縄)
岡崎城西(愛知)	37 (21－9、16－6)	15	北海道札幌真栄(北海道)
浦和学院(埼玉)	27 (12－12、15－13)	25	祐誠(福岡)
長崎日本大学(長崎)	33 (15－11、18－12)	23	東海大学菅生(東京)
県立岩国工業(山口)	31 (12－11、19－8)	19	県立不来方(岩手)
府立洛北(京都)	24 (13－11、11－8)	19	県立香川中央(香川)
県立藤代紫水(茨城)	34 (15－10、19－7)	17	県立紀北農芸(和歌山)

▼準々決勝

北陸(福井)	44 (23－6、21－17)	23	大阪体育大学浪商(大阪)
岡崎城西(愛知)	31 (17－13、14－10)	23	浦和学院(埼玉)
県立岩国工業(山口)	29 (18－11、11－15)	26	長崎日本大学(長崎)
県立藤代紫水(茨城)	33 (17－14、16－17)	31	府立洛北(京都)

▼準決勝

北陸(福井)	37 (22－13、15－15)	28	岡崎城西(愛知)
県立藤代紫水(茨城)	41 (19－9、22－13)	22	県立岩国工業(山口)

▼決勝

県立藤代紫水(茨城)	36 (14－15、22－20)	35	北陸(福井)

▼順位

優　勝　県立藤代紫水高等学校（関東・茨城県）
※2年連続2回目の優勝
準優勝　北陸高等学校（北信越・福井県）
3　位　岡崎城西高等学校（東海・愛知県）
3　位　県立岩国工業高等学校（中国・山口県）

▼優秀選手

最優秀選手　信太　弘樹（県立藤代紫水）
優秀選手　平山　憲人（県立藤代紫水）
寺田　弘太（県立藤代紫水）
児玉　純平（北　陸）
加藤　　悟（北　陸）
雑賀　弘児（県立岩国工業）
山本　修平（岡崎城西）
相川　和紀（長崎日本大学）
有望選手　成田　幸平（府立洛北）

【女子】

▼1回戦

県立水海道第二(茨城)	32 (18－12、14－11) 23	県立石川(福島)
県立大分鶴崎(大分)	52 (25－2、27－2) 4	県立巻(新潟)
静岡市立清水商業(静岡)	20 (12－6、8－6) 12	県立山梨(山梨)
府立洛北(京都)	33 (16－11、17－2) 13	県立境(鳥取)
松江市立女子(島根)	36 (19－13、17－5) 18	県立岡豊(高知)
高岡向陵(富山)	50 (28－9、22－4) 13	県立粉河(和歌山)
県立今治東(愛媛)	23 (10－9、13－13) 22	県立栃木商業(栃木)
那珂川町立福岡女子(福岡)	31 (16－12、15－9) 21	日本大学山形(山形)
暁(三重)	21 (9－5、12－4) 9	熊本国府(熊本)
浦和実業学園(埼玉)	38 (17－11、21－4) 15	仁愛女子(福井)
県立屋代(長野)	19 (9－8、10－9) 17	育英西(奈良)
昭和学院(千葉)	28 (13－4、15－13) 17	聖和女子学院(長崎)
文化女子大学附属杉並(東京)	39 (16－8、23－15) 23	県立蒲生(鹿児島)
県立向原(広島)	22 (13－13、7－7) 20 (1－0延長1－0)	県立辻(開催地)
県立吉井(群馬)	32 (18－9、14－9) 18	県立彦根翔陽(滋賀)
県立飛騨高山(岐阜)	31 (14－15、17－9) 24	県立野辺地(青森)

▼2回戦

四天王寺(大阪)	35 (18－8、17－9) 17	県立水海道第二(茨城)
県立大分鶴崎(大分)	38 (19－2、19－9) 11	県立城北(徳島)
佐賀女子(佐賀)	24 (11－11、13－10) 21	静岡市立清水商業(静岡)
府立洛北(京都)	21 (10－4、11－7) 11	聖和学園(宮城)
県立那覇西(沖縄)	39 (15－3、24－6) 9	松江市立女子(島根)
県立横浜南陵(神奈川)	35 (12－12、23－12) 24	高岡向陵(富山)
高水(山口)	35 (21－6、14－8) 14	県立今治東(愛媛)
名古屋経済大学市邨(愛知)	31 (17－12、14－7) 19	那珂川町立福岡女子(福岡)
夙川学院(兵庫)	29 (14－5、15－8) 13	暁(三重)
浦和実業学園(埼玉)	34 (13－14、21－8) 22	県立盛岡第二(岩手)
県立玉野光南(岡山)	30 (14－4、16－5) 9	県立屋代(長野)
県立高松商業(香川)	19 (7－8、12－7) 15	昭和学院(千葉)
文化女子大学附属杉並(東京)	32 (17－8、15－11) 19	北海道札幌月寒(北海道)
県立大曲農業(秋田)	38 (21－5、17－10) 15	県立向原(広島)
宮学園(宮崎)	39 (13－16、26－9) 25	県立吉井(群馬)
小松市立(石川)	31 (15－13、16－14) 27	県立飛騨高山(岐阜)

▼3回戦

四天王寺(大阪)	36 (20－6、16－15) 21	県立大分鶴崎(大分)
府立洛北(京都)	39 (20－9、19－9) 18	佐賀女子(佐賀)
県立横浜南陵(神奈川)	29 (18－15、11－12) 27	県立那覇西(沖縄)
高水(山口)	26 (14－11、12－12) 23	名古屋経済大学市邨(愛知)
浦和実業学園(埼玉)	27 (11－14、16－12) 26	夙川学院(兵庫)
県立高松商業(香川)	26 (12－17、14－8) 25	県立玉野光南(岡山)
文化女子大学附属杉並(東京)	45 (21－13、24－11) 24	県立大曲農業(秋田)
小松市立(石川)	28 (11－12、17－14) 26	宮学園(宮崎)

▼準々決勝

府立洛北(京都)	23 (9－10、14－8) 18	四天王寺(大阪)
県立横浜南陵(神奈川)	34 (14－9、20－16) 25	高水(山口)
県立高松商業(香川)	32 (13－12、19－13) 25	浦和実業学園(埼玉)
文化女子大学附属杉並(東京)	34 (13－14、21－18) 32	小松市立(石川)

▼準決勝

府立洛北(京都)	35 (17－3、18－5) 8	県立横浜南陵(神奈川)
文化女子大学附属杉並(東京)	31 (16－9、15－19) 28	県立高松商業(香川)

▼決勝

府立洛北(京都)	39 (19－8、20－13) 21	文化女子大学附属杉並(東京)

▼順位

優　勝	府立洛北高等学校（近畿・京都府） ※9年ぶり2回目の優勝
準優勝	文化女子大学附属杉並高等学校（関東・東京都）
3　位	県立横浜南陵高等学校（関東・神奈川県）
3　位	県立高松商業高等学校（四国・香川県）

▼優秀選手

最優秀選手	乾　彩友美（府立洛北）
優秀選手	坂本　彩香（府立洛北）
	島岡　望（府立洛北）
	大場　帆海（文化女子大学附属杉並）
	太田　光咲（県立高松商業）
	藤吉　美樹（県立横浜南陵）
	飯田　菜々栄（四天王寺）
	藤井　保奈美（小松市立）
有望選手	横山　香夢（文化女子大学附属杉並）

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」3月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫、小島収治　【青森】鎌田孫秀　【岩手】中舘　豊　【福島】今野雅益　【茨城】稲吉　繁、田中汀子、田中　将、小川雄也　【群馬】伊崎克巳　【埼玉】坂井弘元、高田　誠　【千葉】外山朝子、勝俣裕二、堀　圭悟、石橋　茂、石橋美保　【東京】荘林康次、西村興八　【神奈川】石井美和、杉山義祥、植村　繁、五島孝彦、渡辺亜由美　【山梨】千野恒夫　【愛知】間瀬和義、角　紘昭、西口貴子、西村亮治　【三重】加藤　公　【大阪】幸田良一、古庄哲則、四方洋子、松林義政、小森園多恵子　【兵庫】丸茂登茂子、丸茂康子、山原一晃、簗瀬未佑、簗瀬　稜　【岡山】厚沢嘉身、厚沢フサ子　【広島】門田勝正　【高知】有光正憲、佐賀厚幸

【5月の行事予定】

【会　議】

5月12日(土)

常務理事会(東京)



【新刊書のご案内】

「アイスランドにやって来た日本ハンドボールチーム」

ソルザソン美也子著、同時代社刊、1,300円＋税

蒲生晴明・日本協会強化本部長推薦

在アイスランドの著者は、12年前の第14回世界選手権での日本男子ハンドボールチームとの出会いから、ハンドボールの魅力を改めて日本の人々に知ってもらいたい、更に、好きになって欲しいとの願いを込めて発刊されました。

HAND BALL CONTENTS May.

(登録チームの購読料は登録料に含む)



(財)日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第四八〇号

昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可

平成十九年四月二十六日印刷 平成十九年五月一日発行

東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表 〇三―三四八一―二三六一
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円